

# SMILE BOOK

vol. **11**  
2017

その笑顔  
を輝かせる  
フロンティア  
スピリットを  
追う。



その人は何に取り組んだのか？  
開拓者たち。

FRONTIER

渡辺パイプCSRアクティブレポート 2017

SEDIA SMILE BOOK vol.11 2017年3月25日発行 発行：渡辺パイプ株式会社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス6F

水から未来を考える。  
自然の学びを未来へ活かす。

セディア財団は  
スマイルプロジェクトを  
応援しています。

## 全国小学生 かべ新聞コンテスト

セディア財団は「わたしたちの  
くらしと水」をテーマに、全国の  
小学生を対象としたかべ新聞  
コンテストを開催しています。  
第2回のコンテストには全国から  
たくさんの応募をいただきました。



## 高校生が描く 明日の農業コンテスト

今年、全国の農業高校生を対象  
にした新しい活動がスタートしま  
した。「わたしはこんな方法で農業  
を元気にする」をテーマに、高校  
生の若い感性と発想でまとめたレ  
ポートを募集しています。



## 野外力検定

子どもたちが自然体験の楽しさを  
知る機会を増やすことを目的に  
行われている「野外力検定」。  
セディア財団では、その開催や  
主任検定員の養成などのバック  
アップも行っています。



  
SEDIA SMILE  
PROJECT  
次へ。

働く人の笑顔。  
それに支えられて、日々平穏に暮らす人たちの笑顔。  
安心な世の中だからこそ、笑顔が生まれる。  
日々の仕事、さまざまな活動を通じて、  
笑顔の輪をもっと大きく広げていきます。

水・住まい・農業の明日へ。そこにセディアシステム  
渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10  
浜離宮パークサイドプレイス6F  
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374  
<http://www.sedia-system.co.jp>



# FRONTIER SPIRITS

水と住まいと農業、  
生活インフラの  
仕事にかかわる人々を  
取材していくと、  
その笑顔のそばには、  
数々の  
フロンティアスピリットが  
ありました。

今回のスマイルブックでは、  
そんな笑顔を輝かせる  
開拓者精神をご紹介します。



# 開拓者たち。

その人は挑み、その人は取り組み、その人は変えた。

世の中の大半の方は気づいていないかもしれません。普段の生活では当たり前と思っていることも、実は人知れず、コツコツと成果を積み上げていく方の仕事の上に成り立っています。生活インフラもそのひとつ。その向上に取り組むセディアグループのパートナーの方々は、さらに安全で、安心で、快適で、便利な生活インフラへ挑む開拓者です。世界に誇る日本のライフラインには、水やガスや電気や通信だけでなく、脈々と受け継がれる、そんな人たちの開拓者精神も流れているのです。

## 第1章

Chapter 1

### 技を拓く。

- 135 当たり前の裏にあるもの。 P06  
株式会社丸サ佐藤設備商会
- 136 しなやかさを原動力に。 P10  
JFE継手株式会社
- 137 ターゲットを絞る。タイミングを逃さない。 P14  
苦東ファーム株式会社
- 138 工事もワンストップで。 P16  
株式会社メディオテック

## 第2章

Chapter 2

### 明日を拓く。

- 139 未来を耕す。 P20  
京都大学農学研究科
- 140 つながりは、積極的に創る。 P24  
桶川工業株式会社
- 141 油を使わない工場。 P26  
株式会社タブチ
- 142 背中が語ること。 P28  
西岡さんご一家

## 第3章

Chapter 3

### 人を拓く。

- 143 前例も、機械もなければ作る。 P32  
株式会社清水合金製作所
- 144 概念を崩せば、職人は育つ。 P36  
株式会社オオサワ創研
- 145 すごい現場は学びの宝庫。 P38  
国本建設株式会社  
株式会社西川水道商会

セディアCSRストーリー P40



# 技を拓く。

より確かな仕事のために、

より快適な生活のために、

技を開発する人がいる。

製品を開発する人がいる。

その終わりのない取り組みの積み重ねが、

快適な暮らしの礎となっている。







135

株式会社丸サ佐藤設備商会

# 当たり前の裏にあるもの。

札幌の水道事業の歴史と進展は、

丸サ佐藤設備商会の歴史と進展に重なる。

「何も特別なことはしていませんよ。ただ、目の前の仕事をきっちり行うことに全力を注ぐ、そんな当たり前の仕事を重ねているだけです」と言うのは、丸サ佐藤設備商会代表取締役の佐藤さん。その言葉を鵜呑みにすると大切なことを見失うことになる。

日本各地を取材して回っていると、地域差というものを感じる。食べ物しかり。気候しかり。そして人々の気質しかり。断定も断言もできないが、取材者の印象でいえば、北海道の方はどちらかといえば謙虚なタイプが多いと思う。控えめな言葉を信じていると、その裏に隠された真摯な取り組みを見逃すことになる。丸サ佐藤設備商会にもそのことが言えると思う。何もしていないはずはない。何もしていないなかったら、競争の厳しい世界で50年近くも地域の信頼を得ることはできないはずだ。

「私は2代目の社長ですが、先代のときと変わらず毎日が真剣勝負。そうはいってもがむしゃらに取り組む訳ではありません。先代のときから受け継がれているのは、北海道に即した工法や工事やサービスを探して磨いていくというこ

とです」と佐藤さんは言う。ご存知のように、寒冷地の北海道では上水や下水のパイプは本州より地下深くに埋める。また、最近では少なくなってきたけれど、昔は冬の寒さで水道が凍結したり、水道管が破裂したりすることがよくあった。その現場に向き合い、工事をして、今後の対策を考え、より快適なライフラインを作っていくのが北海道に誕生した水道設備店の役割だった。丸サ佐藤設備商会は、札幌で老舗に入る水道設備店だ。丸サ佐藤設備商会の歴史と進展こそ、札幌の水道事業の歴史と進展でもあるのだ。





派手なことを

一生懸命行う企業は多いけれど、

当たり前のことを

きっちりと行う企業は、意外と少ない。

今でこそ当たり前になった設備に水洗トイレがある。札幌で水洗トイレが普及したのは本州より遅かった。1970年の後半になってからだった。より清潔で、快適なサンタリーにしたい。より清潔で、快適なサンタリーを届けたい。そんな思いが合致して札幌ではどんどんトイレの水洗化が進んでいった。その整備に大きく貢献した水道設備店のひとつに丸サ佐藤設備商会を挙げる人は多い。「それまでと違う工法を身につけたり、びっくりするような需要に応えたり、あの頃は大変でした。それまで行っていなかった施工をする。しかも依頼はひっきりなしに来る。水洗化

バブルのような状況でしたね。ただね、そんなときだからこそ、仕事はいつも以上にきっちりしろと先代は社員に発破をかけていました」と佐藤さんは言う。需要があれば儲けることだけを目当てに参入してくる業者が現れる。しかし需要の波が引けばそんな業者は淘汰される。最後に残るのは、いつも確かな仕事をする者たちだけなのだ。

取材の現場は札幌市内の小学校の配管工事だった。冷たい風が吹き抜けるなかで、社員たちは黙々と、迅速に仕事をしていく。あつという間に掘り起こされ、土管が現れ、撤去される。その仕事の過程をきっちりと撮影している社員が

いた。報告書に使うためだという。しかしこれほど丹念に、各工程を撮影している人と出会ったのは初めてだった。これまでの取材現場では、施工されている方が、掛け持ちで写真を撮られている事が常であった。

当たり前の仕事をきっちり重ねるということは、こういうことなのかと納得させられる。工事だけではなく報告書にも手を抜かない。そしてそれこそ、札幌で仕事を重ねている丸サ佐藤設備商会の誇りであり、どの時代も、どんな時代になっても当たり前の大切さを拓いていくのが丸サ佐藤設備商会なのだろう。



株式会社丸サ佐藤設備商会  
代表取締役  
佐藤 安幸さん

「効率やスピードより、何が札幌の人に役に立つのかを考えて仕事をしたいですね。たとえば鉄管がサビて穴があいていて、ふさぐように依頼されても、長い目で見て取り換えた方がいい場合はそう提案します。何が札幌の人のためになるか。それを第一に考えて仕事をしたいですね」

- 住 所：北海道札幌市豊平区平岸1条14-6-1
- 電 話：011-822-4185
- 設 立：1971年
- 代表者：代表取締役 佐藤 安幸
- 従業員：14名
- 事業内容：暖冷房・空調設備工事、給排水衛生設備工事、消火設備工事、水道設備工事、ポンプ設備工事、土木工事、その他住宅設備機器販売施工





# しなやかさを 原動力に。



「まずやってみる」の精神が、

既成概念を超える取り組みを推し進めていく。

JFE継手はその名の通り、継手などの部品や配管システムのメーカー。鋼管用トランジション活管分岐継手やネオジョイントなどで数々の技術賞に輝くなど、その技術は高く、特にパイプニップルはトップシェアを誇る。その躍進の裏には、次代に対応するしなやかさがあると言うのは、JFE継手の製造部長の坂田さん。「80年前の商品カタログ第1号に記載されている商品を、現在でも作っています。完成品だけを見れば同じなのですが、その質や製造方法は格段に進化しています。見えない所のしなやかさ、そこに弊社らしさがあるのではないのでしょうか」と笑顔で言う。

しなやかさは、言い換えれば変化を恐れないチャレンジスピリットとも言える。JFE継手には「まずやってみる」という社風が根付いているという。「弊社はマーケットインの考えが強いメーカーだと思っています。できるだけお客さまの近くまで行って声を聞き、それに応える製品やサービスを開発しています。それはメーカーがやることじゃないという型にとらわれた発想はありません。それ

がいい製品、いいサービスなら、他メーカーが行わないとしても取り組んでもいいじゃないかと考える企業風土。メーカーとしての得手不得手はあるとしても、まずやってみるんです。ブレイクスルーはそんな挑戦から生まれるものですから」と坂田さんは言う。

取り組みのひとつが、パイプニップルの製造にも見て取れる。新たにNC旋盤を導入し、切断からねじ切りまで一貫生産を行い、現在9台稼働しているけれど、これからもまだまだ増やす予定だという。かつてJFE

継手をパイプニップルのトップシェアメーカーにしたパイプニップル専用製造マシンが現役で稼働しているにもかかわらずである。その理由を坂田さんはこう言う。「製造するスピードは遅くなりますが、品質と仕上がりに歴然と差があります。部材精度を高く、より良い製品を市場に提供しようというマーケット重視の考えです」



sedia smile story  
136

JFE 継手株式会社





## 樹脂製品に挑む。

## プレハブ配管加工という

## アッセンブルに取り組む。

## 動き続ける、文字通りの

## 可変型の工場をめざす。

工場を案内してもらった。見る者の度肝をぬく巨大な設備、高周波炉、造型機、そして耳をつんざく造型音と1,500度を超える注湯熱。夏には40度を超える暑さになるという工場で、鋳造製品は作られていく。「ご存知のように鋳造製品は素材となる鉄を溶かして、それを鋳型に流し込んで形成していきます。その素材となる材料の配合、添加剤などは、作る製品によって異なります。この成分調整という作業もかなりデリケートな作業の積み重ねなのです」と坂田さんは言う。

そして次の工場は一転して、静かだった。作られる製品は鋳造ではなく樹脂。従業員

も女性が目立つ。ここもJFE継手の工場なのかと思っていると坂田さんが説明してくれた。「1996年からポリブテン管のプレハブ事業を始めました。その当時は、給水給湯用の樹脂管が戸建住宅で本格的に採用される前でもあり、プレハブ事業がまだ市場に浸透していない時期でした。弊社は継手メーカーであり、お客さまからの配管図に基づき加工図面を作成、樹脂管、継手を加工し、完成品を住戸別に梱包し直接工事現場へ納品することは経験したこともなく成功する確信はありませんでしたが、ここにも『まずやってみる』という精神が発揮されて、道なき道を進むことになりました」

樹脂製品のプレハブ事業という未知の領域へ進んだJFE継手。その際にこだわったのは、徹底した品質管理と徹底したアッセンブルだった。品質にこだわるのはメーカーとしてわかるけれど、アッセンブルにまで取り組むとは驚きだった。「品質管理については、加工製品1巻につき30回を超える脈動水圧検査を行っています。これまで弊社

は製品を作るだけでしたが、よりお客さまに近いところで事業を展開することにより、ニーズのキャッチアップも直接的であり、より敏感に商品開発につなげられます。また、お客さまの要望であれば、自社製品以外も扱い、最適な提供も行っています。メーカーとしてだけでなく、プレハブ配管加工のアッセンブルにもこだわって取り組んでいこうと考えた結果です。時代が変われば、工法も変わります。メーカーの工場もどんどん変わるべきです。JFE継手は時代とともに動きつづける可変型の工場でありたいと思います」と坂田さんは言う。そんな取り組みが評価され、JFE継手の売上げにおけるプレハブ配管加工を含めた樹脂管事業の割合は10%を占めるようになった。



JFE継手株式会社

製造部長  
坂田 和也さん

「市場の需要に応じて、稼働内容をしなやかに変化できる可変型工場というスタイルを確立するためには、社員一人ひとりが既存概念にとらわれることなく、フレキシブルな発想で仕事に取り組むことが必要だと考えています」

- 住 所：大阪府岸和田市田治米町153-1
- 電 話：072-445-0285
- 設 立：1935年4月
- 資本金：9億5,895万円
- 代表者：代表取締役社長 寺内 琢雅
- 従業員：312名
- 事業内容：ガス、水道、その他配管用継手及び建築・産業機械部品の製造、販売、プレハブ配管加工



# ターゲットを絞る。 タイミングを逃さない。

# 137

苦東ファーム株式会社

## 農業は大きなビジネスになる。

## その道を拓くために必要なのは、確かな戦略だ。

農業は気候に左右されるから安定したビジネスにならないという意見があるけれど、それは浅はかな意見であって、どんなビジネスだって景気に左右されてこの先どう転ぶかわからない。大切なのは戦略なのだ。苦東ファームの代表取締役社長の榎田さんは言う。「何を作るか、どこで作るか、誰をターゲットにするか、そんな戦略の上に生産システムを構築すれば農業にもビジネスチャンスは眠っているはずなのです」

北海道苫小牧、約40haもの敷地に56棟ものグリーンハウスが整然と並んでいる。生産面積は4ha。作られているのは「とちおとめ」「紅ほっぺ」、そして「すずあかね」のイチゴだ。「本州ではイチゴは寒い季節しか栽培できませんが、北海道では夏場でもイチゴの生産ができます。イチゴを選んだのは基本的に日本産が不足しているから。そして販売ターゲットは一般の方ではなく、製菓製造者に絞っています。いいイチゴを安定して供給できれば通年契約ができるからです」と榎田さん。苦

東ファームでは場所も、作物も、販売先も戦略的に絞っていったのだ。

太陽光利用型の高設栽培グリーンハウス内は最新の環境管理システムによって1年中最適な環境が維持されている。暖房のためのチップボイラー設備も管理。しかしあちこちで人がイチゴの世話をしている。「育てるだけなら設備やシステムでできますが、おいしいイチゴを育てるのはそれだけでは難しいと思います。おいしくするには人の手間が不可欠。手間をかければかけるほどイチゴはおいしくなります。システムと人のハイブリッドがおいしいイチゴの安定供給を可能にするのです。戦略や設備に安心してしまうと、農業の場合は足元をすくわれるかもしれません」と榎田さんは言う。苦東ファームの取り組みの鍵は、システムと人のハイブリッドと言えるのかもしれない。



苦東ファーム株式会社  
代表取締役社長  
榎田 安良さん

「おいしいイチゴを安定して供給すると、食品メーカーやパティシエと年間の契約が結べます。だからこそ安定して供給するための大規模農場が必要。ハウスの建設にあたっては渡辺パイプにお世話になりました」

- 住 所：北海道苫小牧市柏原41-1
- 電 話：0144-84-6356
- 設 立：2014年3月
- 代表者：代表取締役社長 榎田 安良
- 従業員：43名
- 事業内容：農作物、生産販売





# ワンストップで

# 工事



# 138

株式会社メディアテック



アンテナの取り付けから

水道、ガス、太陽光パネルまで、

住まいのすべての工事をわが社で!

メディアテックはアンテナを取り付ける電気工事店から始まった。「一般的に新築工事の場合は、アンテナ工事が行われない場合が多いです。自分でできる方やテレビを買い替える方も少ないので、我々のホームページへ依頼が届くのです」と笑顔で話すのは専務取締役の黒川さん。

しかしアンテナ工事だけに留まらないのがメディアテック。お客さまと接すると思わぬ発見をしたと黒川さんは言う。「水道、ガス、電気などライフラインの工事はそれぞれ別々の工事店へ依頼しているんです。それを誰も不便とっていないのも発見でした。それならわが社ですべての工事ができればお客さまは喜ぶだろうと、工事の幅を少しずつ増やしていったのです」

電気から水道へ、ガスへ。技術の幅を広げると言うのは簡単だけど、確かな工事は一朝一夕で身につくものではない。「各工事店へ研修に出向くこと、確かな技術者を招くこと、協力企業との確かなネットワークを築くこと。他に

も自社で各種工事の研修施設を設けるなど、技術習得には丁寧に、年月をかけて、一つひとつコツコツと取り組みました。時間はかかりましたが、アンテナ工事の依頼で伺ったお客さまへその他の工事でもできることを伝えると、電気以外にも水まわりやガス関係の相談が寄せられるようになります。お陰さまでお客さまは関東一円に広がっています」と黒川さん。

工事のワンストップ。住まいの工事を1社でお願いできるなら、ユーザーにとってこんな便利なことはないだろう。それに目をつけたメディアテックは時間をかけてその技術を習得していった。「できないと思う前に、できる方法を探すのがメディアテック流。今後は工事だけでなく、住まいの建築にも取り組みたいと夢を描いているんです」と黒川さんは新たな挑戦を教えてくれる。その夢はきっと実現すると思う。



株式会社メディアテック  
専務取締役  
黒川 博憲 さん

「広く、いろいろな工事ができるだけならお客さまの信頼を勝ち得ることはできません。どの工事でも質が高くなければいけません。そのために研修の充実は何よりも優先しています。工事の質が次の受注につながるのですから」

- 住 所：東京都新宿区新宿1-28-11 小杉ビル8F
- 電 話：03-3226-5500
- 設 立：1996年7月
- 代表者：代表取締役 松本 秀守
- 従業員：139名
- 事業内容：太陽光発電システムの販売・施工、HEMS、遠隔監視システムの企画・製造・販売、住宅リフォーム





# 第2章

SEDIA SMILE STORY  
Chapter 2



それがなければ、今の暮らしは

どうなっていたらと思う

製品や技術があった。

そして今、それをやめれば

明日はどうなるんだろうと思う

取り組みがある。



# 明日を拓く。



# 未来を耕す。

sedia smile story  
**139**  
京都大学農学研究科



一見は巨大な農場だけれど、  
グリーンハウスの中で  
行われているのは未来を耕し、  
明日の農業を育てる取り組み。



JR木津駅の東側約1kmのところに、約25haもの広大な敷地の農場がある。京都大学農学研究科の木津農場だ。「総面積は24.6ha、圃場面積は約11ha。ナシやブドウなどの果樹、バラやシクラメンなどの花卉、<sup>かき</sup>トマトやイチゴなどの<sup>そさい</sup>野菜などの栽培施設、そして水田がゆったりと配置されている。『環境への負荷は少なく、すぐれた品質と収穫量』をコンセプトに次世代型農業技術の開発に取り組んで

います」と京都大学の北島教授は教えてくれる。

この農場が見つめているのは未来だ。「世界には農業や食糧に関わる課題が山積みになっています。その解決のために『自然エネルギー利用型農業モデルの構築』『高品質・高収量作物生産のための新技術開発』『次世代型有用植物の開発』『ICTを活用した革新的農業技術の開発』『農工医連携研究のプラットフォーム』などに取り組んでいます」と北島教授は言う。

だからこの木津農場ではさまざまな取り組みが行われている。そのひとつが「グリーンエネルギーファーム」の実践。作物を作りながらそのためのエネルギーも同時に作るという試みだ。「グリーンハウスの暖房など農業生産に使う電気や石油などのエネルギーはばかになりません。それだけでなく炭酸ガスの排出など環境負荷の原因にもなっています。この農場では太陽光発電や地中熱交換など、自然の再生可能なエネルギーを積極的に使用。農地における自然エネルギー生産と食料生産の併産をめざしています」と北島教授は言う。なるほどと思う。ここは、見た目は農場だけれど、その中で行われているのは農業の最先端研究なのだ。





## 農業生産の立場から、 食・環境・エネルギー問題の 解決策を探る。

木津農場では高い品質の作物を大量に生産できる、グリーンハウス内の環境制御システムの実験も行われている。面白いのはハウス内の環境制御からさらに1歩進んだ実験を行っていること。「高感度センサーで日射量と温度と湿度とCO<sub>2</sub>を感知して、光合成に最適な環境へと制御する仕組みや、光センサーを搭載した選果機による大量な品質評価データの解析、水管理

システムで水田や畑にとって最適な地下水の制御を行うことなど、高品質と高収量を可能にする栽培技術の実験を行っています」と北島教授。

もちろんこの他にも次世代型有用植物といって、農作物の品質や収量や環境応答などに関する遺伝子を解明して、次世代を担う実用的な品種の育成、さらには農学と、農工、そして医工と連携した研究にも取り組んでいる。北島教授はこう言う。「農業の現場には最新のシステムがどんどん導入されています。また、食と健康は切っても切れない関係にあります。次世代の農業技術を開発し、人々の食と健康を育んでいくには農工連携研究や医農連携研究が不可欠です。その実証の場としてこの農場が機能することをめざしています」

農業生産の立場から、食・環境・エネルギー問題を解決しつつ、高品質・高収量生産を可能にする新技術や新規植物の開発をめざした基礎と応用研究の場、京都大学の木津農場を一言で表せばそうなるだろう。それは農業の未来を拓き、明日の農業を育てる取り組みに他ならない。そう、ここで耕されているのは、農業の未来。その実りが明日の農業を豊かなものにすることを期待したい。



京都大学大学院  
農学研究科附属農場

農学研究科附属農場主事 農学博士  
北島 宣さん

「この農場は最高のグリーンハウスと最新のシステムを導入した、日本でも屈指の農場だと思います。その全体のプロデュースをお願いしますのが渡辺パイプ。数々の課題を見事にクリアしてくれました」

- 住 所：京都府木津川市城山台4-2-1
- 開 設：2016年4月
- 代 表：京都大学大学院農学研究科教授  
附属農場長 雷永達
- 教育研究支援部門：水田班、果樹班、蔬菜班、  
花卉温室班、京都農場班





# つなごう 積極的に創る。



sedia smile story  
**140**

桶川工業株式会社

住まいの水まわりを守るために、

お客さまの会員組織を運営する!



桶川工業は、1944年、東京都板橋区で創業。以後、水まわりの工事を中心に地域に密着した営業を展開してきた。「地元と一緒に成長してきたという気はしています。給排水工事も公共工事がメイン。まさに地域密着型の企業です」と笑顔で語るのは、代表取締役の西村さん。

時代の変化に伴い、桶川工業の仕事の需要は水まわりにプラスしてリフォームも増えてきたが、基本となる部分は変わらない。西村さんは言う。「地域と共に生きるということは、地域のために何ができるかを考えること。お客さまのために私たちの技術で何ができるかを考えて提供することだと考えています。お客さまから建て替への相談があったとしても、住み慣れた空間を活かしたリフォームで対応の方がお客さまの負担にならないと思う場合は、リフォームをお勧めしたりします。

その場のお金より、この先のつながりを大切にするのが、わが社のDNAなのです」

つながりを大切にしているいい例がある。お客さまから年会費をいただいて会員組織を運営しているのだ。「『桶川工業メンバーズクラブ』です。年2回、お客さまの水まわりを診断。傷んだパッキンは取り換えたり、汚れているエアコンのフィルターは掃除します。毎回の診断の結果は診断カルテにまとめてお客さまに提出。スタートのきっかけも、お客さまの住まいに不具合が生じる前に発見して対応すれば大事には至らず、ずっと快適に過ごしてもらえるからです」と西村さんは笑顔で言う。そして大きな安心を届けることが、お客さまとつながりつづけることでもあると西村さんは付け加えた。その通りだと思う。



桶川工業株式会社  
代表取締役  
西村 匠さん

「地域との密着を大切にする一方で、それに甘んじてはいけなないと考えています。待ちの営業から攻めの営業へ。会員組織もそのひとつです。事業も水まわりプラスリフォームへ、現在は不動産事業にも進出しています」

- 住 所：東京都板橋区大谷口上町85-1
- 電 話：03-3974-6111
- 創 業：1944年
- 設 立：1959年
- 資本金：3,000万円
- 代表者：代表取締役 西村 匠
- 従業員：15名
- 事業内容：空調設備設計施工、給排水衛生消火設備設計施工、貯水槽・排水管清掃、リフォーム・リニューアル事業、設備保守委託業務、その他建築付帯設備





# 油を使わない工場。

# 141

株式会社タブチ

sedia smile story



株式会社タブチ  
管理本部 本部長  
徳田 雅也さん

「前を向いて挑戦する人にはエールを送る。たとえ失敗しても次をめざしていればチャンスを与えてもらえる。一番いけないことは何も挑戦しないこと。企画・開発から組み立て・出荷まで、すべての工程で常に改善の余地はある。細やかな部分も見逃さない。そんな徹底したチャレンジ精神がわが社のクオリティーの礎です」

- 住 所：大阪府大阪市平野区瓜破南2
- 電 話：06-6708-0150
- 創 業：1941年7月
- 代表者：代表取締役社長 田淵 宏政
- 従業員：401名(関連会社を含む)
- 事業内容：水道用機器の製造及び販売、他

## 街中の工場は、

## 多品種小ロット生産を極める。

大阪市内にあるタブチの本社工場を訪れると誰もが不思議な違和感に包まれると思う。それを一言で表せば「ここは生産工場なのか」という感想。「ここ大阪にある本社工場は、組み立てをメインとした工場となっており、非常に静かな環境を整えています。また、油を使う機械や作業がないこともひとつの特長です。ものづくりは多品種のラインナップを実現するため、また在庫をなるべく減らして、最小限のスペースで生産ができるように、ジャストインタイムのセル生産方式を採用しています。重要視しているのが、女性でも快適に作業ができる『きれい』で『安全』な工場であること。また、誰もが安心して活躍できる職場づくりと生産性を高めることを目的に、組み立てラインなどの工夫に日々、取り組んでいます。このようなさまざまな取り組みが、結果として近隣の環境への配慮にもつながっています」と語るのは管理本部本部長の徳田さん。

部品の鋳造や機械加工は、鹿児島県霧島市にある「九州タブチ」で生産を行い、その加工された部品を本社に運んで組み立てる。多品種小ロット生産を徹底するタブチでは、組み立て効率を上げるため、自動組立機も積極的に導入している。自動組立機においては、画像処理による部品検査など、品質に対する徹底ぶりが伺えた。「一つひとつの工程を徹底的に作り込み、妥協を許さないのがタブチの“ものづくり”です」と徳田さんは言う。静かで整理・整頓と清掃が行き届いた工場を見て回ると確かにそう感じさせるものがある。サドル付分水栓や水道用ポリエチレン管継手などの画期的な製品を生み出してきたタブチ。そのパイオニアとしての精神は、工場の隅々まできっちりと受け継がれている。この工場が大阪府の優良ものづくり企業に選ばれているのもうなずける。





# 142

西岡さんご一家

# 背中が語ること。



## 説得でなく納得させると、人は勝手に育っていく。

西岡美勝さんは小松菜、ほうれん草、水菜を。長男の賢太郎さんはチンゲンサイ。次男の優さんは小松菜を栽培している。一緒にではなく、別々のグリーンハウスで、それぞれが独立して農業を営んでいる。「親の私が農業をしるとも、継げとも言っていないのに、息子たちは勝手にはじめたんですよ」と美勝さんは照れたように、だけと喜びのこもった声で言う。

美勝さん自身も元々は農家ではなく、農業への転職組だった。奥さまが畑をはじめたのでそれを手伝っている内に本職になったのだ。その理由を美勝さんはこう言う。「50歳からの転職組なんです。理由ですか、おもしろかったんです。がんばればがんばるほど成果があがる。やりがいってやつですね」

それを見て後につづいたのがふたりの息子たちだった。一度は会社勤めをしたもののやがて農業という同じ道へ。「会社員時代とは違って変わってイキイキと

したオヤジの姿に惹かれたんですよ」と賢太郎さんが言えば、優さんはこう説明する。「オヤジの働く姿を見て、農業も捨てたもんじゃないなと思ったのが理由ですね」面白いのは、それぞれが独立して作物を栽培している点。優さんは会社を立ち上げて法人経営にも乗り出している。「農業はちゃんとやれば儲かるビジネスとわかったときから俄然エンジンがかかりましたね。基本は自分がしっかりすること。人や組織や補助金に頼っている間は儲かりません」と優さんは農業の醍醐味をキッパリと言う。

それぞれのグリーンハウスは車でまわれる近さにある。何かが起これば相談する。しかし深くは干渉しない。それぞれが独立して成果をめざす。家族経営ではなく、家族連携とでも表現しようか。「この道を教えてくれたオヤジに感謝しています」と賢太郎さんは素敵な笑顔で言った。



西岡さんご一家  
優さん(左)、美勝さん(中央)、  
賢太郎さん(右)

「それぞれ合わせると80種ほどのグリーンハウスを建てています。その大半が渡辺パイプのハウス。3年補償など安心のサービスが付いていますからね。その3年補償の2万棟目がわがハウスでした。うれしいことです」と賢太郎さんは言う。

- 住 所：福岡県小郡市
- 栽培作物：美勝さん：小松菜、ほうれん草、水菜  
賢太郎さん：チンゲンサイ  
優さん：小松菜







# 人を拓く。



人の営みは人が支えている以上、

人の可能性を拓くことこそ、

笑顔が広がる明日を拓くことにつながる。

そう信じて、人を見つめ、

人を育む取り組みを行う企業がある。



# 前例も、機械も なければ作る。



sedia smile story  
**143**

株式会社清水合金製作所



## 受け継がれる匠の精神と技、

## それは不可能を可能にする志と技だった。

「弊社は彦根市にありますが、彦根といえば琵琶湖かゆるキャラの町と思っている方が大半なんです。でも実は技術の町なのです。弊社が世に製品を問うことができるのも、新製品を開発できるのも、彦根に根づいている職人魂があるからと言って過言ではありません」と代表取締役社長の和田さんはにっこりと笑う。

もともと彦根には鋳物の職人と金属加工の職人がたくさんいて、その技術から3Bと呼ばれる産業が発達していった。「仏壇」「ブラジャー」そして「バルブ」である。「紡績工場では繭から糸を取り出す時に蒸気と水を使用します。その開閉のために『カラン』という部品が作られ、バルブの原型となるのです。そこに仏壇で培われた細やかな

加工の技術が加わって、彦根のバルブ製品は進化していったのです」と和田さんは言う。原材料や副材料が豊富に採れる訳でもなく、大消費地でもないのに、彦根には現在でも30社近いバルブメーカーが操業している。その事実の裏にはそんな歴史的背景があったのだ。

清水合金製作所の場合でいえば、その職人的スピリットが発揮された代表製品は「ソフトシール弁」だろう。汚泥で金属がサビついて止水できなくなるというそれまでの欠点を解消した、当時としては画期的な製品だ。「その当時、ヨーロッパでは普及していたのですが、日本ではまったく知られていませんでした。同じ時期に開発に取り組んでいるバルブ製造メーカーもあったので、弊社



も含め代表的な4社が集まって規格化し、導入を働きかけたのです。1970年後半から1980年前半にかけてのころですね。日本の水道設備技術が大きく変わっていく時代だったと思います」と和田さんは言う。





私たちにできないことは

他社でもできない。

開発にはそんな強い思いで挑む。

職人とは、相手の要望に応じたものを生み出すものだ。清水合金製作所はそのスタイルを徹底している。「全国のお客さまのニーズは多様。新しい規格の製品で、たとえ小ロットの注文であっても応えるように努めます。製造する機械がなければそこから作ります。彦根に根付いている職人魂がこんなところにも発揮されているのです」と和田さんは胸を張る。

今、清水合金製作所が新しく取り組んでいるのが水処理システムだ。とはいえ大規模なものではない。コンパクトでありながら高性能。山奥の水質がよくない地域や災害時に役立てたいという思いから開発がスタートした。「MF膜を利用して水を濾過するシステムです。ポイント

はオールインワンユニットにして設置を簡単にすること。『アクア』シリーズとして何台かは製品化しています。企業として

新しいフィールドへ挑戦したいという思いがベースにあり、小さなニーズに確かな品質で応えるという特長があります。この水処理システムもそう。大規模なものではありません。水質の悪い地域やまさかの災害のときのために開発しています。しかしニーズに大きいも小さいもありません。そして小さくてもニーズはニーズ。求めている人がいる限り、確実に応えていくのが我々のような地方の企業が生き残っていく道だと思います」と和田さんは大きな笑顔で言う。その話を聞いて改めて思う。小さなニーズに応えると次のニーズが現れる。それに応えることも開拓に他ならない。



株式会社清水合金製作所  
代表取締役社長  
和田 正憲さん

「安全に、高品質な製品を、コンプライアンスに則って作り出していく。できなければ製造の機械を作ってまで取り組めるのは、弊社に確かなエンジニアリング力があるからです。この姿勢はこの先もずっと伝えつづけていきたいと思っています」

- 住 所：滋賀県彦根市東沼波町928
- 電 話：0749-23-3131
- 創 業：1947年1月
- 資本金：9,030万円
- 代表者：代表取締役社長 和田 正憲
- 従業員：153名
- 事業内容：上下水道用各種弁類製造、製鉄プラント用耐熱コントロール弁、水処理関連、土木工事業、とび・土工工事業、鋼構造物工事業、機械器具設置工事業、水道施設工事業





# 144

株式会社オオサワ創研

# 概念を崩せば、職人は育つ。



株式会社 オオサワ創研

代表取締役  
大澤 仁志さん

「この業界では研修という概念がありません。それにベテランの職人だからといって、教えることが上手とは限りません。しかしすべてを自社で行うという概念があります。リフォーマー専門学校は、そんな概念を拓く試みでもあっていると思います」

- 住 所：広島県呉市広文化町6-4
- 電 話：0823-27-8787
- 設 立：2008年4月
- 資本金：300万円
- 代表者：代表取締役 大澤 仁志
- 従業員：26名
- 事業内容：水まわり・内装・外装などの住宅リフォーム全般、注文住宅・デザイン・自然素材住宅・電磁波対策住宅、中古住宅・土地売買仲介、損害保険代理業



全国に広がる、

リフォーマー専門学校という取り組み。

職人がいない時代だという。職人は儲からない時代だともいう。だったら儲ける職人を育成すればいい。オオサワ創研の代表取締役の大澤さんはリフォーマーの専門学校を立ち上げた。「昔ながらの職人を育て上げるには時間がかかります。そこでリフォームに特化した、水まわり専門の設備工事を一貫してひとりでこなせる多能工職人を育成しようと考えたのです。通常なら数人必要となる工事も多能工ならひとりで行えるので半分の工期で完了できます。ロスも減り、利益も上がります。通常25～30%といわれる水まわりリフォームの粗利率が、多能工なら40～45%まで上げることが可能なんです」と大澤さんは言う。

多能工がなかなか育たない原因は、これまでの慣習にあったと大澤さんは言う。「弊社の場合もそうでしたが、なかなか職人が育ちませんでした。その最大の理由は、現場で育てようとするから失敗が怖くて、なかなか仕事

を任せることができず、技能取得に時間がかかることでした」

それに気づいた大澤さんは、失敗が許される環境で、トライ&エラーを繰り返せば短時間で技術が身につくはずと考えた。「そこで近隣の工場を借りて研修場に改装。最低1ヵ月、最長3ヵ月、1日7.5時間の実技中心のカリキュラムを構築。トイレ、キッチン、洗面、風呂など、水まわり4ヵ所の解体から仕上げまで、熟練の講師がつきっきりで指導する学校を立ち上げたのです」

2016年に開校したリフォーマー専門学校。当初は口コミでじわりと広がっていったが、メディアにも多数取り上げられ、全国から自社の社員を受講させたいと多くの予約が寄せられているという。そして学校も広島だけでなく、関東方面で2校目の開校が予定されているとか。この取り組みは、近い将来、きっと全国に広まることと思う。





# 学びの宝庫。すぐい現場は



sedia smile story  
**145**

国本建設株式会社  
株式会社西川水道商会

泥まみれになってはじめてわかる真実。

セディアグループの

お客さまと仕事はすごいということ。

「工事がこれほど確かな技術と繊細な注意とチームワークの上に成り立っているとは思ってもありませんでした。泥まみれになってはじめて見えてくる真実があるんですね」と言うのは、渡辺パイプへ入社したばかりの小川雅浩。もうひとりの中池紀揚もこう言う。「仕事に無駄がないんです。その分、工事前の下準備が綿密なんです。そんなことはホームステイをするまでわかりませんでした。セディアグループのお客さまはすごいです」

セディアグループでは、毎年、新入社員をお客さまに預けて、社員として働かせるホームステイ研修を行っている。その目的はいろいろあるけれど、やはりお客さまの近くで、お客さまを深く知ることが仕事をする上で不可欠だからだ。受け入れるお客さまもとても協力的。「戦力にはならないけれど、私たちの仕事は何かを学んでもらえる。知ってもらえると心強いよね」と国本建設の専務の国本さん。西川水道商会の徳原さんもこう言う。

「工事は我々だけではできません。商品をお届けの人との共同作業でもあることがわかってもらえればうれしいですね」

新人の小川と中池は、約1ヵ月ほど、お客さまと汗を流してともに働き、飯を食べた。ふたりが学んだことはたくさんあるけれど口を揃えて言うのは、「セディアグループのお客さまはすごい」ということだった。「たいへんな作業なんだけど、この確かな仕事があれば水道や電気は止まる。つまり生活インフラに支障をきたす。そう思うとお客さまの仕事は本当にすごいと思います」と小川が言えば、「そしてセディアグループも商品をお届けすることで生活インフラの整備と一緒に取り組んでいることがよくわかりました」と中池は言う。自分の仕事が社会にどう役立つのか、それが一番わかるのが現場なのかもしれない。

## 国本建設株式会社

- 住所：大阪府大阪市城東区関目1-12-8
- 電話：06-6939-9993
- 創業：1988年
- 資本金：6,000万円
- 代表者：代表取締役 国本 淳一
- 従業員：20名
- 事業内容：土木・舗装工事

## 株式会社西川水道商会

- 住所：大阪府大阪市此花区梅香1-15-25
- 電話：06-6461-8188
- 創業：1954年
- 資本金：1,000万円
- 代表者：代表取締役 徳原 彰
- 従業員：6名
- 事業内容：各種水道工事業、衛生設備工事業





笑顔を広げる  
最前線へ。  
水と住まいと農業、  
生活インフラの仕事に  
たずさわる  
誰もが開拓者。

# SEDIA FRONTIER!

お客さまと共に。お取引先さまと共に。地域と共に。グループ企業と共に。笑顔を広げる、それもセディアグループのCSR活動です。



笑顔を広げる、  
明日へつなげる。  
すべては  
生活インフラのために。

**熊本地震のときも途切れず活動をつづける。  
どんなときもつなぎつづけること、  
それも渡辺パイプのCSR活動です。**

2016年4月14日の夜に起こった熊本地震。地震で傷ついた熊本の町にとってライフラインの復旧と維持はなにより優先課題でした。社員とその家族、お客さまとそのご家族の安否を確認し、その上でできる限りの援助をするのは渡辺パイプの支援のひとつ。熊本サービスセンターではライフラインの復旧や仮設住宅の建設のために、部材やブルーシートはもちろん、セディアウォーター、さらには取扱商品以外にもお客さまが必要とされるものならば積極的にお届けし、少しでも迅速に復旧と復興が進むように、工事店の方を全力でバックアップいたしました。



**セディアグループは、生活インフラの向上に全力で取り組んでいます。**

**お客さまと共に。**

お客さま、仕入先さま、そしてサービスセンターを結ぶ、業界No.1の流通ネットワークを整備し、水と住まいと農業の川下から川上まで、必要な商品がすべて揃う資材のワンストップ化を実現。渡辺パイプに連絡すれば必要な商品が必要ときに届くという安心を添えて、お客さまを全面的にバックアップしています。



**お取引先さまと共に。**

いまや3,000社を超える仕入先さま、協力企業さまとのネットワークを結ぶ渡辺パイプ。私たちはお取引先さまにも信頼される誠実な企業であり続けたいと日々取り組んでいます。公正な取引を心がけ、企業としてのコンプライアンス（法令遵守）はもちろん、より良いサービスのために仕入先さまとの情報ネットワークも整備しています。



**地域と共に。**

標高2,000mの高峰高原で多様な自然体験プログラムを提供する「浅間山麓国際自然学校」など、渡辺パイプは生物多様性の環境保全をめざし、人が自然の中でさまざまなことを学んでいく機会を提供しています。さらに施設を運営していくことで、環境保護と地元産業の活性化と地域社会の発展に貢献しています。



**グループ企業と共に。**

企業は人なり。それは永遠の真理だと渡辺パイプは考えています。現場のコンプライアンス（法令遵守）を高め、社員の自主性と多様性を尊重する人事制度を取り入れ、教育研修を行い、全国に広がる渡辺パイプやグループ会社の社員一人ひとりの知恵やチカラをグループパワーに結実できる職場環境作りに努めています。







かけがえのないものをつなぐ。つなぎつづける。

# 今日の笑顔を、 明日の笑顔へ。



## SEDIA SMILE BOOK vol.11

### 渡辺パイプCSRアクティブレポート

We would like to introduce some 'smile stories' from people who share in the heartfelt joy and pride of making a contribution to society and to the beauty of our planet.

本レポートについてのお問い合わせは、経営企画室 広報グループまで。TEL.03-3549-3076 FAX.03-5565-6374

社名 渡辺パイプ株式会社  
 本社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10  
 浜離宮パークサイドプレイス6F  
 創業 1953年12月8日  
 代表者 代表取締役社長 渡辺元  
 資本金 100億9,918万4,000円  
 年商 2,660億円(グループ売上:2017年3月期予定)  
 従業員数 4,410名(グループ全体:2017年4月1日現在)  
 業務内容 【管工機材の販売】  
 水道機材、衛生器具、給排水金具、配管材料、他  
 【住宅設備機器の販売】  
 空調機器、浄化槽、厨房機器、給湯機器、建材、他  
 【電設資材の販売】  
 電気工事材料、電線、照明器具、家庭電化品、他  
 【温室の設計・施工・販売】  
 各種温室の設計・施工、各種グリーンハウス及び部品・資材、  
 各種被覆資材、灌水装置、自動カーテン装置、天窗・側窓開閉  
 装置、冷暖房装置、温室環境制御装置、養液栽培システム、他

グループ会社

渡辺パイプ・西日本 株式会社	株式会社 ワーク・サポート
渡辺パイプ・沖縄 株式会社	パイプシステム工業 株式会社
株式会社 ツギテの三共	株式会社 セディア・トランスポート
三興電材 株式会社	
キザイ産業 株式会社	株式会社 エドビ
梅津管材 株式会社	協伸 株式会社
東北鋼管 株式会社	西日本グリーン販売 株式会社
ヤナギ管材 株式会社	Watanabe Pipe Vietnam Co.,Ltd.(WPVN)
昭栄商事 株式会社	
明興電機 株式会社	株式会社 セディア総合研究所
株式会社 大成商会	株式会社 ききくらぶ
平和テクノ 株式会社	げんきビジネスサポート 株式会社
株式会社 資材社	株式会社 セディアビーエス
クサノ電材 株式会社	株式会社 アサマリゾート
三幸機器 株式会社	NPO法人 浅間山麓国際自然学校
株式会社 WATER WORKS	公益財団法人 セディア財団